

# 令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立串本古座学校

校長名： 榎本 貴英

## 目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

豊かな心と確かな学力を身につけ、個性の伸長をはかることで、持続可能な地域や社会の形成者として貢献できる人間を育成する。

## 学校評価の公表方法

学校運営協議会や育友会総会等を通じて関係各位に結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても公表する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組				評価（3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策	
1	学校の生活において、生徒一人一人の個性を尊重し、生徒自身が学校のルールを守り、安全安心に過ごせるためのサポート体制を確立する。身だしなみを整えることの大切さを理解し、更に社会のルールを遵守する意識を養う。 生徒は落ち着いており、小さなトラブルは存在するが大事には至っていない。特にSNSに係る生徒間の問題について多様な指導方法を構築する。	B	学期始め期間を設け、校門指導・自転車駐輪指導を行い、生徒の登下校の様子に注意を払う。	校則や社会規範を守ることがキャリア形成に繋がるのだという意識が高まっているか。	B	各学年に数名ではあるが後先を考えず行動をとる生徒はいる。	○身だしなみについて、改善が見られない生徒については根気強く指導を継続する。  ○SNS利用についての指導については、次年度以降も人権LHRや情報モラル講演等を実施し、生徒の意識向上とトラブルの未然防止に努める。	
			始業式時に服装頭髪点検を行い、改善を促す。 1学年は4月に業者による制服の正しい着用についての身だしなみセミナーを実施する。	身だしなみやマナーを守り、学校生活において適切な言動がなされているか。制服の正しい着こなしを1年生から定着できるか。服装・頭髪違反があった場合に速やかに改善がなされるか。		B		各学年身だしなみについて日々声かけを必要とする生徒は一定数いるが、違反等あった場合は速やかに改善がなされている。
			交通安全に係る講話とテストの実施。情報モラル・薬物乱用に係る講演会・アンケートを実施する。毎月2回、交通安全指導の実施。	SNSの利用について、外部専門機関等の協力も得て生徒の意識向上が図られているか。情報モラル、薬物乱用における正しい理解の向上。交通ルール・列車・バス等の乗車マナーが守れているか。		B		ネットパトロールで指導する機会は現存する。SNSのトラブルについては減少傾向にある。通学時の自転車マナーについては徹底されていない現状である。
2	生徒間の学力格差は依然として顕著であり、特別支援を要する生徒も存在する中で、いかに組織的できめ細かな学習指導を確立するためのシステムの構築を目指す。	B	個々に応じた、納得のできる進路実現を目指す。	学習環境の整備（教室整理整頓・インターネット環境の充実・視聴覚教材の活用・デジタル教科書の使用）	A	コソコソと学習に取り組む生徒が増えてきた。進学状況にもその効果が現れている。	○生徒1人1台PCの活用した授業の実施に向けた取り組みをさらに充実させる。 ○夢をもって進路選択できるように進路学習や、目標を高く持つことで学習に取り組む意欲向上を目指したい。デジタル教材の活用も検討し、習熟度に応じた課題に取り組むことで学力向上を目指す。	
			家庭での主体的に取り組む学習時間を確保するなどの具体的な方策が講じられているか。	年間最低一回の研究授業実施による授業力の向上と生徒の言語活動を中心とした主体的な活動をさせる言語活動などの探究型の授業への取組		A		ポートフォリオにより授業ごとの振り返りを継続して取組み、振り返りを行っている効果が出ている。
			基礎学力確立のための各教科の組織的取組がなされているか。	自己の考えを主張できるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上をさせる。		B		1年生はインタビュー・新聞作成。2年生は学習成果発表会でプレゼンテーションを実施。
3	生徒会が各行事において、コロナ禍で制限を受けつつも状況に応じて柔軟かつ積極的な活動ができたが、実施内容についてさらに検討する。 クラブ活動については、全体的な加入率は高いものの運動部の加入率が低迷しており、今後は活性化はもとより存続も含めて検討する。	B	クラブ活動の更なる活性化に取組む。	各クラブ活動の維持向上。	B	複数のクラブで合同チームでの大会出場することが増加。	○生徒数の減少傾向が続く状況において、クラブ活動の活性化は不可欠である。 ○生徒会活動は次年度以降も引き続き積極的な活動を展開していく。挨拶運動や各種啓発運動や地域交流などに積極的に参加していく。	
			体育祭・文化祭その他の学校行事において地域に向けて串本古座高校を発信する。	各行事において、地域住民の参加や町内関係機関からの働きかけを得ることができるか。		C		体育祭・文化祭は一般の入場を制限したため想定以上のものは得られなかった。
			生徒会活動の活性化のため地域や他の学校との交流に取り組む。	生徒会行事を積極的に行うことができたか。校外へのイベントに積極的に参加することができたか。		B		可能な範囲で外部イベントには参加するよう活動した。
4	学校設定科目等で地域資源を生かした教育を推進しているが、防災教育などでも地域との連携をさらに深め、学校教育の活性化を図りたい。また、学校の特色や教育活動等の情報を発信することで開かれた学校づくりに努め、入学志願者の増加につなげる取組を行う。	B	防災委員会を核とした、生徒の「自助、共助、公助」意識の向上を図る防災教育の実施。	災害発生時に適切な判断や行動ができるよう、防災スクールや避難訓練をとおして意識の涵養が図れたか。	B	津波避難訓練ではより高台を目指す避難経路の確認を行うなど、新たな取組を実施。	○避難訓練では、これまでの取組みをさらにステップアップし取組んだ。  ○地域との連携をさらに強固なものとするために広報活動も含め、さらなる情報発信に努める。	
			地域協議会やくろしお共育サポーターと連携し、地域独自の教育活動誌を推進する。	地域をまるごとキャンパスにして、教育活動が行えたか。地域の人材を活用することで高校生が町づくりに参加し、地域貢献ができたか。		A		CGS部が檜野崎灯台において雑草狩り活動など地域に貢献する取組が行われた。
			「学校案内」や生徒の全国募集に係る案内チラシ等の広報資料の充実と、教育活動についての広報の実施。	充実したオープンスクールの実施や、ホームページの随時更新等を滞りなく推進できたか。		C		ホームページの更新が滞りがちとなった。

## 学校関係者評価（2月28日実施）

○学校関係者アンケート結果

・保護者や地域の方々との情報交換や意見を取り入れ生かす機会を設けているかについて、AとBが多かった。

・「本校には他の学校にない特色があると思いますか」については、AとBを合わせると80%以上の保護者が「他の学校にはない特色がある」と答えている。

・充実した授業が行われているかについてはB評価が多いが、AとBを合わせると70%を超えている。

・基本的な生活習慣や規範意識涵養の項目もB評価が多い結果となっている。

・アンケート全体ではAとBを合わせると80%を超える結果となっている。

○生徒アンケート

・どの質問でも「そう思う」または「どちらかというと思う」の回答が多い。

・学校行事については、規模を縮小しての実施や新たな学校行事の模索など、生徒たちも現在置かれている状況を理解し、生徒会を中心に協力的に各行事に取り組むことができたことが高評価に繋がった。

・全体的に、前年度調査に比べて高評価となっている。

